

★星野つよしのプロフィール★

昭和38年8月8日生まれ
 藤沢市立長後小学校・藤沢市立長後中学校
 神奈川県立鶴嶺高等学校 卒業
 昭和58年4月 日本大学法学部新聞学科入学
 昭和62年6月 ニューヨーク州エルマイラ大学
 国際関係学科卒業
 昭和63年3月 日本大学法学部新聞学科卒業
 昭和63年4月 産経新聞社に入社 社会部記者
 平成2年4月 政治部に配属、首相官邸・外務省・
 自民党など担当し平成5年3月退社
 平成7年4月 神奈川県議会議員初当選
 (当時31才最年少県議会議員、以降、連続3期当選)
 平成20年2月 藤沢市長選に立候補42,020票獲得
 するも約2,800票差で惜敗
 平成22年6月 自民党神奈川第12区選挙区支部長
 公募で得票率88.13%を得て支部長に選任
 平成24年12月 第46回衆議院議員選挙立候補
 73,476票を獲得し小選挙区で初当選

平成26年12月 第47回衆議院議員選挙立候補
 83,327票を獲得し2期目当選
 平成27年10月 第3次安倍改造内閣において
 ・経済産業大臣政務官
 ・内閣府大臣政務官
 ・復興大臣政務官
 の3つの政務官に就任
 平成28年12月現在
 衆議院 予算委員会 委員
 経済産業委員会 委員
 憲法審査会 委員
 自民党 組織運動本部 地方組織・議員総局 次長
 組織運動本部 商工・中小企業関係団体委
 員会 副委員長
 国会対策委員会 委員

仕事、家事、子育て、介護などで真面目に働いて
 いる全ての人々が、安心して心豊かで幸せを感じなが
 ら暮らせる社会を実現するため、地元の藤沢市、寒
 川町で、そして、被災地や国会で命懸けで頑張っ
 ています。(家族:妻、一女、一男)



上・安倍総理と共に「無名の会」会合にて
 右・地元の皆様と国会見学



★国会見学ツアー★

国会及び自民党総裁室、そして
 星野つよし議員執務室などを見
 学訪問しませんか？期待を超え
 る感動の体験となること請け合
 いです。お電話いただければ喜ん
 でアレンジいたします。



★政党掲示板設置のお願い！★

星野つよし事務所では、政党掲示板を設置させて頂
 ける場所を募集しております。星野つよし応援のために、
 是非ともご協力頂けますよう、宜しくお願い致します。
 ＊設置させて頂ける方は是非とも星野事務所までご一報く
 ださい。こちらからお伺いし、設置させて頂きます。

星野つよし連合後援会事務所

自民党神奈川県第12選挙区支部
 〒251-0052 藤沢市藤沢973 相模プラザ第3ビル1F
 TEL:0466-23-6338 FAX:0466-23-6339
 Mail: hoshino@t-stars.com

自民党員募集中！

自民党員になって★星野つよし★を応援しよう！
 入会手続きは事務所までお問い合わせください。

フェイスブック日々更新中！ 星野剛士(星野つよし) でご検索ください
 ホームページは <http://t-stars.com>



LIBERAL&DEMOCRATIC
自由民主 星野つよし
 自由民主党神奈川県第12選挙区
 (藤沢・寒川)支部 支部長
 〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢973
 相模プラザ第3ビル1F
 Tel:0466-23-6338 Fax:0466-23-6339
 発行所
 自由民主党本部
 郵便番号100-8010
 東京都千代田区永田町1-11-23
 電話 TEL:03(3268)1111 FAX:03(3268)1111
 定休日 日曜日(祝日を除く)
 自由民主党ホームページ <http://www.jimin.jp/>



平素より私の政治活動に対し、ご理解並びに温か
 いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、早いもので前回の総選挙から2年が経過し、
 任期も折り返し地点を迎えました。この間、経済産業
 大臣政務官並びに復興大臣政務官を拝命し、安倍内閣
 の一員として政府の中で働く機会にも恵まれました。

★自動運転技術★

様々な課題に取り組んでまいりましたが、特に力
 を入れたのは自動運転技術の向上です。自動運転シ
 ステムを搭載したロボットタクシーの実証実験が今
 年2月から3月にかけて藤沢市大庭で行われました。
 約2.4キロの道のりを完全自動運転のタクシーが走
 るという日本初の試みに52人の藤沢市民が体験乗車
 しました。20回の走行実験を行った結果、交通事故
 は一切無く、「うちのお父さんの運転よりも安心して
 乗ることができました」との感想も頂きました。

★交通事故をなくすために★

私が自動運転システムを推奨する理由は3つあり
 ます。第1は交通事故の大幅削減です。昨今、高齢
 者ドライバーの操作ミスによる交通事故が連日のよ
 うに報道されています。交通事故原因の9割をしめ
 る人為的ミスを減らすのに、同システムは大いに役
 立つと考えられます。

余談ですが、先日、遊行寺(藤沢市)住職で御年
 97歳になられる他阿真円上人が、運転免許証を自主
 返納したというニュースが流れました。その後、お
 上人とゆっくりとお話しさせて頂く機会に恵まれた

ので、その件についてお伺いすると、「免許を持っ
 ているとどうしても乗りたくなるので」と述べられ
 ました。その言葉からは、自制心の大切さをつく
 づく感じさせられた次第です。

★生活の足の確保、ドライバー不足の解消★

第2は「生活の足」の確保です。バスや電車も通っ
 ていない地域に住む、いわゆる交通弱者は現在全
 国に約700万人おります。こうした買物や病院に
 行くにも不便極まりない現実に直面している方々
 も、自動運転技術が向上すれば、何不自由なく外
 出することができるようになります。

第3はドライバー不足の解消です。現在わが国
 は、アベノミクス効果による景気の回復傾向によ
 り物流が盛んな一方で、特に長距離トラックのド
 ライバーが不足しています。自動運転技術が進めば、
 この問題の一つの解決策となる可能性があります。

★より良い社会を目指して★

このように自動運転は、まさに人に優しい技術
 革命であり、社会が良くなるのに大いに貢献する
 システムです。東京オリンピック・パラリンピッ
 クが開催される2020年には、ロボットタクシーや
 自動運転によるバスなどが街中を走り、国民全員
 が不便を解消して暮らせる社会になっていること
 を期待したいと思うと共に、その実現のために引
 き続き尽力してまいります。

衆議院議員 星野つよし

星野つよし

活動報告(平成28年夏～冬)

星野つよし
フェイスブックより一部抜粋

※フェイスブックには地元の皆様との交流や星野の活動が速報で掲載されています。



7月15日(シンガポール)

「シンガポールー日本 ビジネスフォーラム」 公務出張でシンガポールを訪問。「シンガポールー日本ビジネスフォーラム」でスピーチをしました。16店舗が出店する『Japan Food Town』のオープニングセレモニーでお祝いの挨拶もしました。現地の伊勢丹デパートでは、山梨産の桃が一つ約3,500円で飛ぶように売られていました。日本食ブームの進展に期待大です。スピーチ概要は8月8日付け日本経済新聞に掲載されました。



日本の桃
一個3,500円



10月12日(国会)

予算委員会、集中審議。

11月30日 塩崎厚労大臣への不信任決議案に反対票を投じました。



街頭演説で

政策を訴えています

恒例の日程は藤沢駅などで月曜日6時45分頃～土曜日15時30分頃～政務などで変更がありますが続けています!



8月24日オーストラリア視察

自民党からの派遣でオーストラリアを視察訪問しました。首都キャンベラでは連邦議会を訪問し、各省庁の大臣と会談。日豪連携の重要性を再認識しました。



11月7日(藤沢)

星野つよし時局講演会

タウンニュース藤沢版と寒川版に毎月意見広告を掲載中。タイムリーな話題をわかりやすく解説しています。

さらなる最新記事はフェイスブックで!

江ノ島大橋3車線化へGo!!

2020年東京五輪セーリング競技が江の島で開催されることが決定しました。この決定自体は大変喜ばしい限りですが、それを受け入れる江の島には解決すべき問題が多々あると思います。その一つが江の島大橋(車道)の混雑です。

皆さんご承知の通り、江の島大橋は休日ともなると観光客等で大渋滞となっております。セーリング競技開催時には今の大渋滞を更に上回る渋滞が容易に予想されます。これを解消するためには同橋の3車線化が必要です。

江の島大橋3車線化実現に向けての予算確保も実現し、大会の大成功へ向けて尽力してまいります。

ホシノのお勧め本はこれだ!

仕事に効く教養としての「世界史」

I & II 出口治明・著(祥伝社)



本書はライフネット生命保険株式会社 会長兼CEOの著者が、「日本を知りたければ、世界の歴史を知ることだ」といった視点から書いた本です。

同書は各国の歴史を通史として捉え、中国、ヨーロッパ、中央アジアなどの地域をめぐる11話のエッセイで構成、教科書的ではなく、国家・民族・宗教・戦争などの視点を加えた考察が述べられています。

著者は学者や専門家ではないので、必ずしも学術的ではないですが、世界史を面白く解釈し直せるきっかけとなることでしょう。また日本の常識ではなく国際的視点からの常識で物事を考える大切さも教えてくれる一冊です。

★ホシノの政策解説★ 年金は下がりにません! ★★(レッテル貼り)に惑わされるな!★★

先日、国民年金法改正案が自民・公明・日本維新の会などの賛成多数により可決されました。同法案に対し民進党などは「年金カット法案だ!」と声高に叫び、まさに野党お得意の「レッテル貼り」に終始しました。

「安全装置」としての年金法改正

今回の法改正は年金カットではなく、むしろ年金制度を維持するために必要な改正です。現在わが国は総人口1億2600万人に対し、年金を受け取っている方々は約半分の6千万人。少子高齢化が益々進む中、年金制度は50年後も100年後も維持されなければならま

せん。そのための「安全装置」が今回の年金法改正なのです。つまり「わが国の実質賃金が10年後2%下がった(上がった)場合、年金制度を維持するために年金も並行して2%下げます(上げます)」というように、年金額を上下させるための前提条件がちゃんと付けられており、何も年金を絶対に下げるという法改正ではありません。

実際、10年後の経済状態は誰にも判りません。しかし、今の経済状況を見る限りでは、アベノミクス効果で実質賃金は年々上昇しており、有効求人倍率も1.4

倍程度になっているため、実質賃金下がることは考えられません。従って、年金がカットされる状態にはないと判断されます(もっとも将来民進党政権が誕生した場合は、民主党政権時のように著しく経済状況が悪化する恐れはあります)。

世代間のリレーを絶やさないために

年金制度とは「世代間の助け合いのリレー」と私は考えています。民進党のデマに惑わされず、子供の世代、孫の世代と子々孫々まで年金制度が続くようにするための法改正であったと正しい理解を深めて頂けますよう、お願い致します。